



IBM×Oracleによる“基幹業務”のデジタル変革支援サービス ～Digital Ready+のご紹介～

外部環境の劇的な変化により、企業のデジタル戦略の早急な実現化が求められています。デジタル化は顧客体験だけでなく、ビジネスのオペレーションにも必要不可欠です。IBM×Oracleによる“基幹業務”のデジタル変革支援サービス「Digital Ready+」は、基幹業務のデジタル化を早期に実行し、今後飛躍的な成長のために必要な源泉となる”データ”を活用するための最良なソリューションです。

企業自身のコグニティブ化・デジタル化を支援するDigital Ready+

サプライチェーンや経理、人事などの基幹業務を更に生産性向上、精度を高めていくためにはデータの活用が不可欠です。Digital Ready+では、①AIによる業務の高度化、②RPAによる業務の生産性向上、③Cloudによるビジネス俊敏性の強化を実現するためのサービスであり、新しい業務価値体験を提供します。

すべての組織・業務をコグニティブに、デジタルに

Cloudによるビジネス俊敏性の強化

業務プロセスのデジタル化・整流化



①AIによる購買業務の高度化 ～Watson Procurement Intelligence～

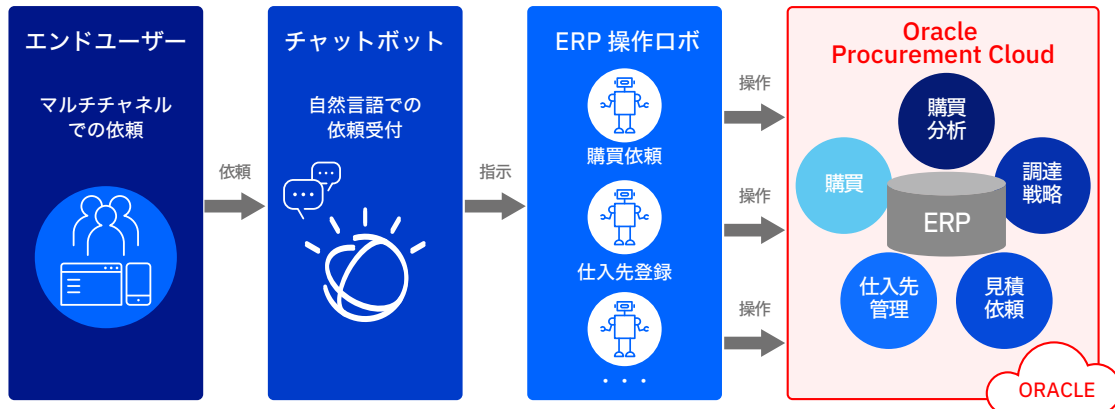
Watson Procurement Intelligence on Oracleは、社内外に散在する関連情報を収集一元化することで、購買業務の効率化/スピード化を促進し、価格交渉によるコスト削減に貢献するソリューションです。Oracle Procurement Cloudに溜まった業務データとWEB上にあるニュースやSNS情報などを組み合わせて購買業務の意思決定支援を行います。



②業務処理の自動化による生産性向上 ～IBM RPA for Oracle～

昨今ロボティクス(RPA)の活用による業務生産性の向上の取り組みが様々実行されています。IBM RPA for Oracleでは基幹業務における定型業務だけでなく、非定型業務を含め最新のコグニティブテクノロジー+RPAを活用し自動化をすることで、お客様の業務の生産性向上を図ります。IBM RPA for OracleはすでにOracle ERP Cloud/SCM Cloudの主要業務ケースで適用できるテンプレートを用意し、お客様の業務自動化を支援します。

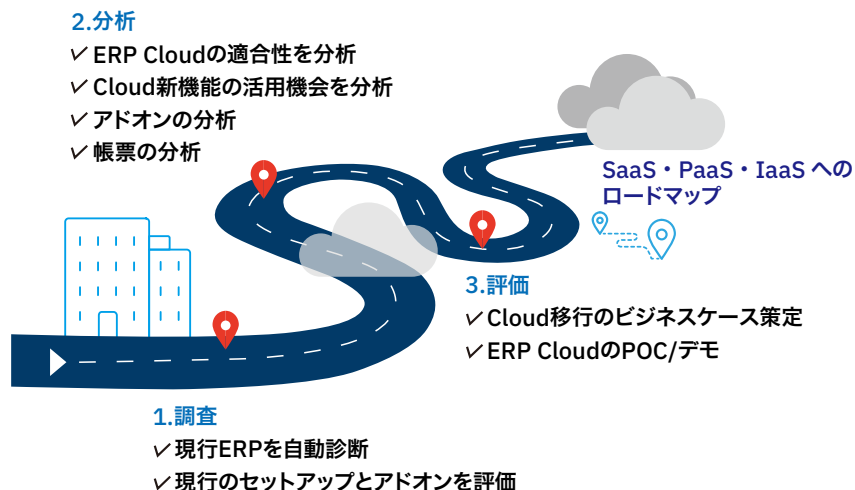
〈チャットボットとRPAを活用した業務自動化の一例〉



③Cloudによるビジネス俊敏性の強化 ～Oracle SaaS移行影響評価サービス～

IBM独自のCloud移行影響評価サービス“Oracle Cloud Impact Assessment”は、Oracle EBSからOracle ERP Cloudへの移行のためのビジネス側面およびテクノロジー側面双方の影響評価をするための新しいサービスです。わずか1ヶ月の短期間で①現行業務・システム調査、②Cloud環境でのTo-Be検証、③ビジネス効果試算などを行い、最終的にOracle ERP Cloud移行可否を含むビジネスケースおよびロードマップを策定します。

〈短期間でのCloud移行評価を行う“Oracle Cloud Impact Assessment”〉



お問合せ先

IBMORACC@jp.ibm.com

※当資料に記載された情報は、事前の予告なく変更させていただく場合がございます、あらかじめご了承ください。

日本アイ・ビー・エム株式会社



IBM、IBMロゴ、およびibm.comは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml (US)をご覧ください。©Copyright IBM Japan, Ltd. 2018 日本アイ・ビー・エム株式会社 〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19-21 Printed in Japan April 2018 All Rights Reserved

ORACLE Platinum Partner
Cloud Elite
Japan